

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

## 再びタイガー

昨年12月に開催された、タイガー・ウッズが大会ホストを務める「ヒーロー・ワールドチャレンジ」会場になったバハマには予想を上回るたくさんの方々が集まってきた。久々にタイガー・ウッズが登場し、プレーをする姿を誰もが待っていた。この約30年間、ゴルフだけでなく、世界のアスリートの代表格としてファンを楽しませてきたウッズ。プロアマを含め、トーナメントは4日間で90ホール。彼は歩き切ることができるのか、そんな不安を誰しもが持っていた。

というのも、彼は、2年前の交通事故で両足とも複雑骨折。さらには以前からの持病であった腰痛を抱えている。その影響で練習どころではなく、リハビリに大方の時間を費やしながらも復活したウッズの姿を間近で見たい、あるいはメディアで彼の姿を見たいというファンの数は、計り知れない。

試合は、ワールドランク1位のスコッティ・シェフラーが20アンダーで制したが、彼を追いかける若手も、コリン・モリカワ、マシュー・フィッツパトリックなど、新しい時代の猛者たちがずらりと顔を揃え、トップを競った。イーブンパーのウッズが、最終18番ホールを上がってきた時に、そのスコアはさておき、スタンドの観衆も、グリーン周辺のギャラリも、割れんばかりの拍手を送ったことは言うまでもない。

左足を引きずりながら、ホールアウトするウッズに、マイクが向けられた。かつて見たことがないほど、体中に汗を流しながら、淡々と彼はこう答えた。

「とにかく4日間プレーできたことは、最高の喜びでした。しかし、もっと楽しみなのは、来週のPNC選手権なんだ。息子のチャリーと一緒に優勝を狙うよ。多分、彼が僕のフォームを直してくれると思う」

タイガーは2つの目標を持っているようだ。もちろん、出場できる試合数は限られるが、再びUSPGAの試合での優勝と、彼がもっとも狙っているのは、6回目のマスターズでの優勝である。

2つ目の目標は、親子での心のスキルアップである。傷んだ体をかばいながらプレーする自分の姿を、間近で見成長する息子チャリーと、ゴルフの楽しさを再確認しているところである。

ゴルフは、大人はもちろん、子供たちの教育の場として、うってつけのスポーツである。どんな局面においても、最終的に頼りになるのは、自分自身であり、精神力であり、技術力しかないということをお教える。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。